三世代にわたって歴史を刻む協業経営

資料４

～地域と連携して協業と個別経営を両立させる多様な取組～

昭和48年頃・初代

昭和61年頃・2代目

平成31年・3代目

農事組合法人　伍協牧場

奈義町の概要

地理

- 岡山県の北東部
- 北部は中国山地を境に鳥取に隣接
- 南部は日本原高原等の平地が多い
  自衛隊の演習所も

自然条件

- 平均気温は14℃で温暖
- 台風シーズンには局地風(広戸風)が吹くことも
  →農作物に被害

農業

- 農業が主産業
- 水稲、黒大豆、白ネギ、サトイモなど

畜産

- 局地風の影響を受けにくい
- 肉用牛と黒豚のブランド化
- 農業粗生産額の７５％

経営の概況

平成30年　飼養頭数

	肉用種	交雑種	乳用種	計
繁殖(成牛)	249	31		280
肥育	409	262	310	981
販売	292	183	337	812

- 労働力員数　家族・構成員　7人
  従業員　13人
- 肥育牛販売収入　約 6億5千万円
- 堆肥販売収入　約 5千万円
- 牛舎　第1農場　5棟
  第2農場　2棟
  第3農場　2棟
  繁殖センター　5棟

経営の推移

乳用種

交雑種

黒毛和種

S48年
伍協牧場設立

S49年
経営開始

S60年
生協との産直協定を締結

H8年
経営の主体が二代目に移行

H9年
交雑種を増頭
黒毛和種を導入

H11年
乳用種をブランド化

H14年
和牛を増頭

H18年
第2農場運営開始

H26年
第3農場・繁殖センター運営開始

H3年
牛肉の輸入自由化

H5年
産地銘柄牛として「なぎビーフ」誕生

H13年
国内でBSE発生

素牛生産者の減少

子牛を育成し、
仕上げ前に
構成農家へ払い下げ
※現在、経営間の牛の売買はない

専用飼料を給与
H21年から稲WCS
H25年から飼料用米を使用し、
農地に堆肥を還元

黒毛和牛部門を一貫経営に移行

伍協牧場関係図①

奈義町

JA勝英

経営技術指導

ミーティング参加

肥育牛販売

國富牧場

和牛とF1の哺育、
育成、肥育
飼養頭数は3牧場
の中で最大

伍協牧場

労働力

給料

技術の共有

花房牧場

和牛肥育に専心

豊福牧場

F1の肥育中心
6次産業化
赤身肉を生産

加工販売店経営

伍協牧場関係図②

奈義町

伍協牧場

國富牧場

・機械整備
・施設整備

豊福牧場

・情報発信

花房牧場

・肥育技術

機械の共有

肥育技術

こだわりのエサ
なぎビーフ専用の配合飼料
肥育前期：高タンパク
肥育後期：高カロリー

＋

黒大豆のきな粉

×

定期的な血液検査
ビタミンAをコントロール
（和牛）

＝

うまみのある肉
A4以上約90%（和牛去勢）
黒大豆で食味向上

目標

早期出荷

枝肉重量530kg以上
(和牛去勢)

繁殖技術

発情・分娩管理

発情発見装置、
分娩通知アラート

広い飼育スペース

2～３頭飼い

堆肥製造

牛床	堆肥化	袋詰め	販売
敷料：おが粉	完全発酵	年間約45万袋	ホームセンター 耕種農家

袋詰めまで牧場内で

地域との連携

伍協牧場

乳用種

交雑種

黒毛和種

消費者ニーズに対応

高付加価値化

資源循環

耕種農家

所得の確保

黒大豆生産者

エサ

堆肥

経営の特徴

協業経営

★月に1度、構成員とJAが集まり意見交換

★毎日、構成員でミーティング

★定期的な従業員のミーティングと勉強会

★飼養技術の共有

★適材適所

★各農家に公平なルールづくり（給与や労働出役）

切磋琢磨し合う
牧場経営

親子3代続く
経営に

時代の流れに応じた飼養形態

★乳用種・交雑種・黒毛和種の3種の肥育

★乳用種は生協との相対取引

★交雑種と黒毛和種はブランド化による高付加価値化

★和牛の繁殖・肥育一貫経営

リスク軽減

安定した
経営

今後の経営展開

★繁殖部門の強化

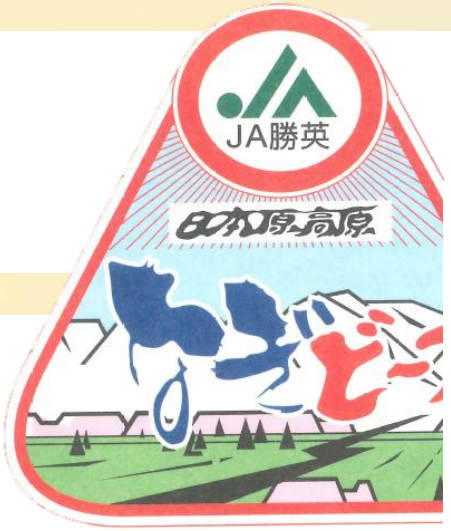
繁殖母牛増頭

★省力化

大型機械の導入と牛舎の増改築

★ブランド力向上

「なぎビーフ」を全国的なブランドに



★組織体制改革

指揮命令系統の明確化と従業員教育

ご清聴ありがとうございました